

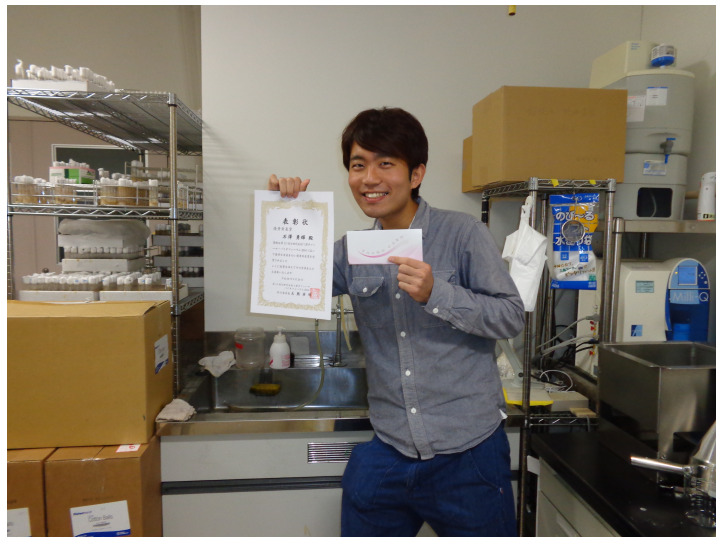
『第 13 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2014』に参加して

B4 石澤 勇輝

私は 2014 年 9 月 20・21 日に富山にて開催された、第 13 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2014 に参加し、口頭発表を行ってきました。このファーマ・バイオフィォーラムは、先生方からの手厳しい質問による若手の育成を目的とした学会であると聞いていたため、スライドや発表の準備にとっても時間をかけました。初めての学会ということでとても緊張しましたが、研究室の方々の日々のご指導のおかげで、自分の中では全力を出し切れたと思っています。質疑応答では様々な分野の先生から研究に対するご指摘を頂くことが出来ました。しかし、質問者の意図を読み取ることが出来ず戸惑うこともあり、自分の知識不足や着眼点の甘さも同時に痛感しました。他の学生の発表や質疑応答も非常にレベルが高く、多くのことを吸収できた学会だったと思います。

光栄なことに、今回の発表において学部生の部：優秀賞を頂くことが出来ました。この賞を頂けたことは自信にもなりますし、今回の経験を活かし、今まで以上に頑張っていこうと思いました。

今回このような機会を頂いたことに感謝致します。ありがとうございました。



---

第 13 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2014』

学会レポート

B5 寺西 達貴

私は、2014 年 9 月 20 日(土)から 21 日(日)にかけて富山国際会議場にて開催された第 13 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2014 に参加し、『ショウジョウバエ器官改変系を用いた Mi2/NuRD 複合体の機能解析』という題目で口頭発表をさせていただきました。このフォーラムは、生物系薬学分野の研究に従事する学生を対象に、若手研究者の育成を狙いとして立ち上げられたもので、今回も活発な(時には手厳しい)質疑応答やディスカッションが展開されました。私の研究分野(発生生物学)が、本フ

オーラムでは馴染みの薄い分野であったことから、分かりやすい発表スライドの構成を意識して作る努力をしましたが、改めて研究内容や自分自身の考えを相手に“伝える”ことの難しさを実感しました。

今回の口頭発表は、研究室内外問わず、私自身にとって初めての機会だったので、当初は食事も満足に喉を通らぬほど緊張しましたが、発表本番は何とかやりきることができました。(研究室での発表練習の方が、緊張したかもしれません...)質疑応答では、もっと的確な回答が必要であったと感じる場面があり、反省点や課題を多いに残す発表ではありましたが、他の参加者の発表に対して質問をすることができたり、私と同じく薬学部の6年制に所属する薬学科生の研究発表を聞いたり、貴重な経験もしました。

夜の懇親会では、海の幸やお酒を満喫しながら、他大学の参加者や薬学科生との交流を深め、発表を終えた爽快感も相まって楽しい時間を過ごすことができました。

学会に参加したことで、自身の研究を見つめ直す良い機会になったと同時に、同世代の学生、特に今回参加していた薬学科生から、良い刺激を受けました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださったこと、深く感謝いたします。